

2016年1月23日(土)～24日(日) 天候:土 曇り、日 雪

山名:赤岳

参加者:川崎

【コース】

1/23(土)埼玉自宅～立川(特急あずさ1号)～茅野駅～路線バス～美濃戸口(10:30)～赤岳山荘～北沢コース～赤岳鉱泉(13:30着)

1/24(日)赤岳鉱泉(7:30発)～中山典越～行者小屋(8:30)～文三郎道～登頂断念(10:00)～行者小屋～赤岳鉱泉～美濃戸(13:30)～茅野駅～帰京

【コメント】

計画:1/25(月)に東京での会議出席にあわせ、1/22(金)に有休をくっつけ雪山登山を思い立った。飛行機を考慮すると1泊2日、つまり土日丸々使え1年ぶりに赤岳を狙おうと鉱泉に予約を入れた。過去厳冬期は2勝1敗で登頂成功している。しかし天気予報はかなり厳しく、雲取山への変更も視野に入れるも鉱泉の予約は150名と聞き安堵しながら、準備を急いだ。

1/23(土)、美濃戸から鉱泉までの道は、いつもと同じ。特に危険箇所もなく、夏道と変わらない3時間のペースで到着する。鉱泉名物のアイスクャンディー(アイスクライミングの人口グレンデ)は年々巨大化しており、今日も約50名ほどのギア類をガチャガチャした人たちが、パイルを米に打ち込んでいる。私はビール、八ヶ岳ワインをあげながら食事時間までウトウトした。今夜はステーキ、こんなに豪華で美味しい料理をだす山小屋を私は知らない。周囲は約半分が赤岳・阿弥陀岳狙い、残りが硫黄岳、キャンディー組のようだが、皆明日は行けるところまで行くと言う。食事後19時には就寝し明日に備えた。

1/24(日)、予報通り荒れている。鉱泉周辺は一晚で20センチほど積雪があり、気温はマイナス25度を下回っている。烈風の稜線は体感マイナス40度ぐらいだろう。久しぶりの激烈な登山に備え、装備を入念にチェックした。7:30に出発し、中山典越を超えて行者小屋までは、特に問題なくたっぷりの雪の感触を楽しみながら歩みを進めた。行者小屋で一息ついていると早朝出発組のパーティが早くも下山してきた。髪やまつげがバリバリに凍っている。声をかけると「チョット今日は厳しいですわ」。勇気を奮い起こし、文三郎道の登攀を始める。樹林帯が切れる辺りから、様相が一変した。オーバー、ウール、インナーの三重の手袋を突き抜け、指先に寒を感じる。先行パーティのトレースははっきりしているが、強風がうなりをあげ、空も暗い。続々と上部から撤退してくる人々。山頂も吹雪で見えず徐々にホワイトアウトが濃くなっているようだ。ここまでだな。

私は撤退を決意し、下降を始めた。なんと私の後から上ってくるのは、1パーティ3人だけではないか。皆早々に撤退の決断をしたようだ。慎重に赤岳鉱泉まで戻り、美濃戸の八ヶ岳山荘で風呂とカレーを楽しみ、週末の大冒険は幕を閉じた。

私はまたいつかここに帰ってこよう、そう固く誓っていた。